

AI が活躍する今の時代だからこそ思うこと

| 鹿児島県言語聴覚士会 | 湯田 大介

「困ったな。こんな時どうしたら…。そうだ。ChatGPT に聞いてみよう！…ふむふむなるほど。そうなんだ。こうしたらいいんだ。聞いたらなんでも答えてくれるし便利！」

－こんにちは。言語聴覚士の湯田と申します。人工知能（AI：Artificial Intelligence）。ほんの数年前は（あれ？十数年前かな…）映画の中の話で、現実世界でこんなにもありふれた言葉になるなんて、正直思いもしませんでした。Windows のパソコンがまだ物置きになるくらい分厚くて、一家に一台もなかった頃から当たり前に一人一台持つようになって、携帯電話も一人一台持つようになって…。それが当たり前の時代になってきました（今の時代の当たり前は本当にお金がかかりますよね）。さて、一人一台スマートフォンを持つ時代になり、ここ数年で AI が日常の中に入ってきました。スマホ一台あればいつでも AI が使える時代、それが現代です。AI は至るところで活用されておりますが、みなさんがよく会話で使う、あるいは聴く「AI」は主に「対話型 AI」のことではないかと思います。勝手にそうだという前提で話を進めますが、対話型 AI はおそらく日常で「AI」という言葉をよく聞くきっかけになったものだと思います。では対話型 AI とはなんなのでしょう。対話型 AI とは「人間とコンピュータが自然な言語で会話（やりとり）ができるように設計された人工知能のことです。テキストや音声での問いかけに対して、まるで人間と話しているかのように文脈を理解し、適切な回答をリアルタイムで生成します」

ということのようです。最近では文章を考えてもらうのに対話型 AI を使うのが流行っていますよね。問題として取り上げられることも多いですが、非常に便利であるのは事実です。私は今回、執筆するにあたり「対話型 AI は使わないぞ」と決めて臨んだのですが、はい、先ほどの対話型 AI の説明である「人間とコンピュータが—」の部分は Google の Gemini に聞きました。私は検索するときによく Google を使用するのですが、最近は検索窓から検索すると検索結果とは別に AI の回答も出てくるんですね。おそらく多くの方が対話型 AI を知ることになった Open AI 社の ChatGPT（2022 年 11 月～）、Microsoft 社の Copilot（2023 年 2 月～）、そして Google 社の Gemini（2023 年 3 月～）。よく使われているのはこちらの 3 つでしょうか。使わないつもりだったのにいつの間にか使ってしまった。そのくらい対話型 AI は日常に溶け込んでしまっています。困ったらひとまず対話型 AI に聞いてみる。そうすれば何かしらの回答は得られます。非常に便利なのですが、いいことばかりではないように思います。

一つは人間自身が考える能力が低下する可能性があるということです。質問したらなんでも答えてくれる機械がそこにいる。自分で考えるより聞いた方が早いですもんね。しかも文章まで作ってくれるんですよ。自分で考えなくていいじゃんってなりますよね。人間がこれまで行ってきた思考・知識を学習させて作ったはずの AI なのに人間側が考えなくなるってなんとも皮肉な話

ですね。

次に対話型 AI が出した答えは本当に正確なのかということです。もちろん、より詳しく質問することで回答の精度はあがるようですが、あくまで人工知能であり回答の全てが正しいわけではありません。実際に臨床をしていると患者さんから「息子から画像が送られてきて、あんたはこう言っていたが、そうじゃなくて、こうだと言っている。こっちが正しいんじゃないか」と言われたことがあります。一緒に送られてきた画像を確認すると、対話型 AI に質問した回答のスクリーンショットでした。これって結構、最近のあるあるだと思うんですけどみなさんいかがでしょう。あまり詳細は言えませんが、今回の件に関しては結果として私の説明の方が正しく、納得していただき解決できました。しかし、「AI がこう言っているから間違っているのは絶対にあなただ」という方もいらっしゃるかもしれません。もはや一種の宗教のようなものなのかもしれません。私の職場では実際に病院紹介を対話型 AI で作成してみました。大まかな流れを作る上では非常に便利であると思いましたし、すごく楽だなと思いました。しかしよくよく読むと、同じことをまるで別のことのように書いていたり、日本語に少し違和感があったりしました。やはり、しっかりと文章全体を確認して修正が必要だと思いました。どれほど便利になっても、対話型 AI が生成した文章をそのまま使用してはいけないこと、自分で思考することをやめてはいけないことがよくわかりました。対話型 AI が出した答えが本当に正しいのか、それを見極める能力を求められる時代になったともいえます。

最後は対話型 AI を使用することで、実際の人とのコミュニケーションの機会が減ってしまわないかということです。私たち言語聴覚士は一人の人間として患者さま、対

象者さまとのコミュニケーションを非常に大事にしております。「この言い方は失礼にならないか」「この言い方で伝わるだろうか」「この人にはこの方が伝わりやすいのではないか」と話す前に考え、話したあとに反省し、試行錯誤を繰り返しながらよりよい関係性を築けるように日々意識しています。これは言語聴覚士に限らず全ての人のコミュニケーションにいえることです。当たり前のことですが、「対話には相手がいる」。対話型 AI に対しては「相手（対話型 AI）が嫌な思いをしないように」と考えながら使用する方はあまりいないと思います。伝わらなかったら言い換えればいいくらいにしか思わない方も多いのではないかと思います。しかし、人間相手ではそうはいきません。人とのコミュニケーションは温かみがあり、予測できないイレギュラーなこともたくさんあります。対話型 AI がすぐに答えを出してくれることであっても、時には話を脱線しながら、ああでもない、こうでもないと言いながら一緒に考えることが非常に大事だと感じます。

使える部分は使いつつ、自分で思考することをやめないように気をつけて、対話型 AI と適切な距離感をとって、目の前の人とのコミュニケーションを大事にしながら、今の時代を生きたいと思います。